

2020年 第31回 NACS 東日本支部 研究発表会へのお誘い

つなぐ 広げる いーすとのチカラ！ ともに考える わたしたちの未来！

NACSは消費生活に関する我が国最大の専門家団体です。NACS東日本支部では、会員同士の相互啓発や情報交換のために、現在9の分科会と13の自主研究会が、自発的に研究や学習を行っています。そして、年に1度、その成果を発表する場が「NACS 東日本支部 研究発表会」です。

消費者問題や消費者活動にご興味のある方、学生、事業者、消費者団体、マスコミの方等、どなたでもご参加可能です。NACS 東日本支部の活動を知っていただくとともに、様々な消費生活や持続可能な未来について、ともに考え・学ぶ機会にしたいと考えています。みなさまのご参加をお待ちしています。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、手洗い、マスク、咳エチケットなどの感染症対策にご協力をお願いいたします。

また、内容については予告なしに変更される場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。

日時 2020年5月23日(土) 13:30~17:00(開場 13:00)

(ホールへの入場は13:00です。13:00までは1Fロビー等でお待ちください。)

会場 東京ウィメンズプラザ ホール

東京都渋谷区神宮前 5-53-67

東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線

表参道駅 B2 出口から徒歩7分

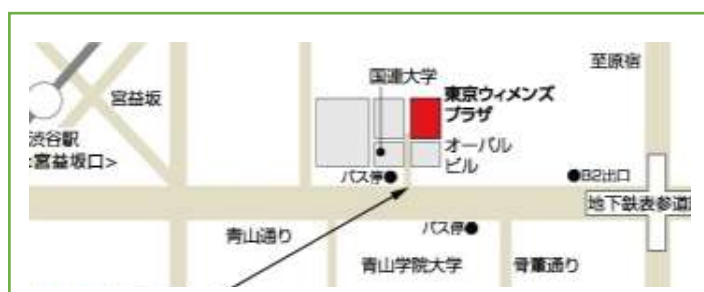
JR・東急東横線・京王井の頭線

渋谷駅 宮益坂口から徒歩12分

対象

消費者団体、事業者団体、マスコミ、
学生、一般の方 どなたでも参加可能

参加費 無料



青山通りオーバルビル前にある看板が目印です

内容

13:30~14:20

第一部 講演 消費者庁長官 伊藤 明子様(予定)

14:45~17:00

第二部 研究発表会

千葉分科会

千葉の農業と食のエンカールはどう変わるか 2020年東京オリンピック大会がもたらすものは

CS(顧客満足)研究会

これからの時代のES向上によるCSとは ~「日本初の従業員満足規格(JSA-S1001)」を考察して~

コンプライアンス経営研究会

持続可能な社会へ向けて、新しいビジネスモデル「サブスクリプション」を考える

~所有から利用への変化は、社会の好循環を生み出すか~

標準化を考える会

「助けや危険を知らせる音の標準化」を考える ~ユニバーサル社会の実現を目指して~

研究発表コメンテーター

全国消費者団体連絡会事務局長 浦郷由季様、青山学院大学大学院法学研究科客員教授 川上正隆様
お申込み・お問い合わせは、NACS東日本支部HPから

<http://nacs-east.jp/lecture/sibu.html>



研究発表内容のご紹介

千葉の農業と食のエシカルはどう変わるのか ～2020年東京オリンピック大会がもたらすものは～

千葉分科会

2020年は56年振りに日本で開催される東京オリンピック・パラリンピックの年である。近年オリンピックはスポーツの祭典という面と併せて「環境」が重要なテーマとなってきた。千葉分科会では、2020東京オリンピックの持続可能性コンセプト「Be better, together（より良い未来へ、ともに進もう）」が自分たちの地域や食にどうかかわるのかテーマを絞って調査・研究をした。特に2020東京オリンピックの食材調達基準であるGAPが千葉県の農業にどういう変化をもたらし、食のエシカルは消費者である私たちにどうかかわってくるのか。そしてその課題を探ってみた。

これからの時代のES向上によるCSとは ～「日本初の従業員満足規格（JSA-S1001）」を考察して～

CS研究会

CS研究会は『企業の“最大の資産”は「人」であり、「ES」無くして「CS」無し』を掲げ20年余り活動してきた。近年「生産年齢人口の減少」や「ワークスタイルの多様化」などが企業の大きな課題になり、従業員満足を高めて働きやすい職場をつくるのが重要視される一方で、顧客（主に消費者）満足を追求した従業員への過剰な負担が社会問題にもなっている。そこで「従業員満足は顧客満足に繋がるか」調査を進めたところ「働きがいのある会社ランキング」に11年連続上位に挙げられているディスコ社を知り、同社が日本初の「従業員満足規格JSA-S1001」を作成したことも分かった。同社の施策と、そこから生まれた規格は「新しい時代の働き方と経営のあり方」を示唆するものであった。当会では過去の研究で作成した「CSモデル」と、今回の学びを踏まえた「ESモデル」を重ね合わせることによって、これからの時代の働き方の本質（従業員満足向上による顧客満足）に迫る「CS・ESモデル2020」を提案したい。

持続可能な社会へ向けて、新しいビジネスモデル「サブスクリプション」を考える

～所有から利用への変化は、社会の好循環を生み出すか～

コンプライアンス経営研究会

インターネット技術の発展は、私たちの消費生活環境にも変化を与えている。新しいビジネスとして、幅広い商品・サービスの領域で始められた「サブスクリプション」（以下、サブスク）は、情報誌やネットニュース等で、時代の先端サービスとして取り上げられている。サブスクとは、月額定額料金で使い放題になるサービスである。最近注目されているのは、インターネットと結びついて柔軟で使いやすいことから急速に拡大している点であり、その対象はゲーム、音楽、動画等のソフトウェアにとどまらず、ファッション（衣類・バック・アクセサリ）、外食、家具、電化製品、自動車、空き家まで、衣食住に関わる幅広い「モノ」に広がり始めている。「モノ」のサブスクは、消費者視点では、「所有」から「利用」へ消費の形態がはっきりと変化している。また、複数の利用者でコストを分け合って負担する仕組みを作り、利用料金を安くしている。「モノ」を使い捨てるのではなく、リユースやシェアリング等を取り込むことが求められ、その先に、資源の有効活用や、社会の持続可能性に貢献できる可能性を秘めているのではないかと考える。（…続く）

「助けや危険を知らせる音の標準化」を考える

～ユニバーサル社会の実現を目指して～

標準化を考える会

標準化を考える会では、様々な社会課題を、標準化という手法を用い解決する活動をしている。現在、切迫性の高い社会課題として、子どもの連れ去りや事故によるケガ、自然災害等の危難に見舞われた時、独居高齢者等の安全を図るために、障がいのある方も含めた全ての人に有効な「助けや危険を知らせる音」の標準化を検討している。

例えば、助けを求める音の一例として、防犯ブザーは小学生に身近な防犯グッズであるが、音色は様々で、その音を聞いても、何の音か分からず、（街の）周囲の様々な音に紛れて警告音だと認識するのは難しいと思われる。助けを求めていると分からなければ、助けに繋がることは難しい。また、防犯ブザー機能がついたスマートフォンのアプリも活用されているが、それらの音色も統一されていない。適切な「統一（標準化）された音」が策定され、更にそれが受信されることにより、その音を聞いた（受信したら）、皆が「誰かが助けを求めている」と理解でき、すぐに救難行動をとれることが大事だと考える。（…続く）